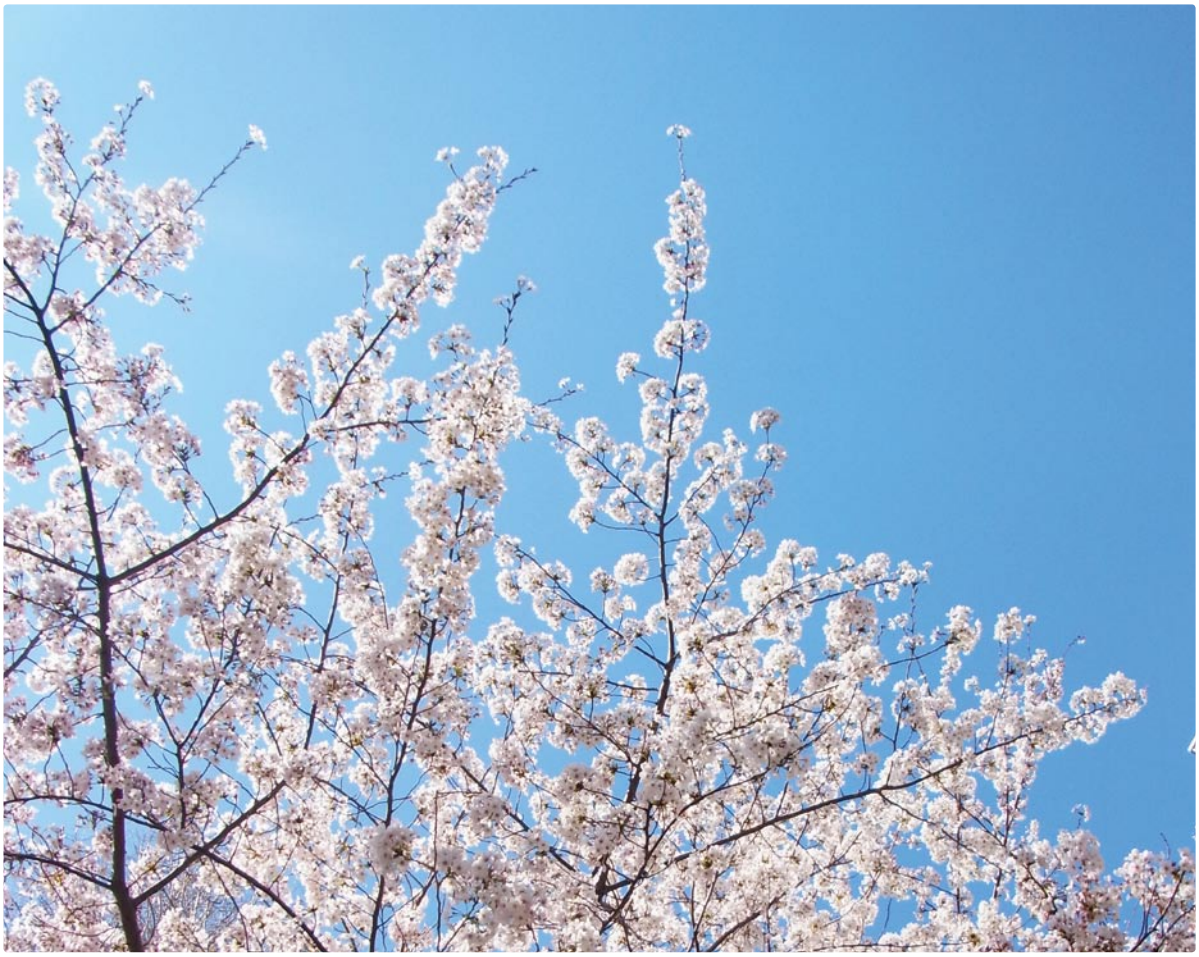
OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学報　第236号　2013年4月4日

OCHADAI GAZETTE April, 2013



リーダーを育む

CONTENTS

TOPICS

学長からのメッセージ…… 1-2
新入生の皆様へ
お茶の水女子大学のリーダーシップ教育

平成24年度卒業式 …… 3-4
学長告辞

学生のアクティビティ…… 5-6

教員紹介…… 7
● 松岡　智之先生
（大学院人間文化創成科学研究科文化科学系）

卒業生紹介 …… 8
● 福留　奈美さん（家政学部食物学科卒）

附属学校園からのお知らせ…… 9-10

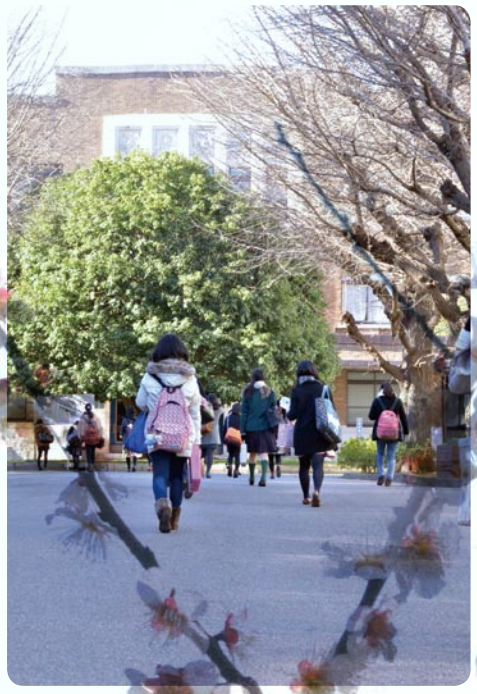
キャンパス点描……11-12
● A-WiL国際シンポジウムを開催しました
●「OGとの交流会～face-to-faceで語ろう」が開催されました
●「東日本大震災に関連した緊急を要する調査･研究課題の中間報告会」を開催しました。

メディア報道記録/研究表彰等受賞者一覧/ …13-14
主要行事予定

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

学長からのメッセージ

新入生の皆様へ
お茶の水女子大学のリーダーシップ教育



ご入学を心からお慶び申し上げます。

新たにお茶の水女子大学の学生となられた皆様と共に、本学の新しいページを記すことを楽しみに皆様を心から歓迎いたします。

'Women can save Japan's economy.'　2012年10月にIMF世界銀行年次総会が東京で開催された際、クリスティーヌ・ラガルド専務理事のこの発言が注目を集めました。その理由は二つあります。一つは、国際通貨基金という国連専門機関のリーダーが、日本の経済発展と女性の社会的活躍を直接関連づけたことであり、二つには、女性の社会的活躍の割合が国際的に著しく低いという問題意識が日本の社会にあったからです。

お茶の水女子大学では現在リーダーシップ教育に力を入れていますが、それは、本学で学ぶ学生が、社会に活力と真の豊かさをもたらす能力を身につけ、それぞれが社会の多様な分野で活躍することを期待してのことであり、また、それが国立の女子大学の一つの重要な使命であると考えてのことです。

本学のリーダーシップ教育は三つの理念を核としています。それは、「心遣い」「知性」「しなやかさ」です。「心遣い」は他者を尊重し、他者に対して寛容に振る舞うことを意味します。また、大学で学ぶ者は専門的な知識を身につけ、その知識を状況に応じて適用する能力を習得しておかなくてはなりません。そのためには、単に既知のものを吟味することなく受け入れるのではなく、自らの知性を駆使する勇気が必要です。そうして初めて新たな発見が可能になり、それが学問の進歩を

可能にするからです。さらに、リーダーシップ教育では、自らを信頼し自信をもつことも重視しています。そのためには多様な可能性を吟味し適切な判断をする能力を練磨しておかなくてはなりません。そのようにしてこそ、独断ではない確信に裏付けられた「しなやかな」強さが得られると考えています。

こうしたリーダーシップ教育によってお茶の水女子大学が描いているリーダー像は、単に組織の頂点にあって強力に組織を牽引するリーダーだけではなく、「場」を担い、「場」を機能させる力をもつ存在です。いかなる組織であってもその構成員一人ひとりは多様であり、組織自体の在り方も多様です。本学のリーダーシップ教育は、その多様性を尊重しながら自らが属する「場」に責任をもち、その「場」を創造的に機動させることができる「リーダー」の育成を目指しています。

現在はとくに多様な在り方を尊重しあい、共に豊かな社会の構築に努めることが国際的にも重要な課題となっています。そして私たちは、高等教育機関に身を置く者として、社会の情勢と課題に常に敏感でなければならないと考えています。

皆様がこの大学で豊かな学びの日々を過ごされ、社会的課題の真相を見極めて、その課題に適切に対処できる能力を培われますことを心から期待しています。

2013年　春
学長　羽入　佐和子

学長からのメッセージ

新入生の皆様へ　お茶の水女子大学のリーダーシップ教育

平成 24 年度卒業式
学長告辞

ご卒業おめでとうございます。

本日ご卒業される皆様そしてご家族はじめ関係の皆様に心からお祝い申し上げます。

本日は、本学の監事と経営協議会の方々、そして、卒業生の会である桜蔭会の会長、理事の皆様、名誉教授の先生方にもお出でいただきました。まことに有難うございます。

皆様が入学された 4 年前の入学式のときに、私は学長として初めて告辞を述べました。そして、皆様とともに 4 年間を歩んで参りました。

この間の大きな課題は、学士課程教育を充実させるための教育改革でした。それは、文系と理系という区別を前提としない「新たなリベラルアーツ教育」と既存の専門領域を学生が主体的に超えるための「複数プログラム選択履修制度」というお茶の水女子大学独自の教育システムです。

この教育システムの成果が開花するのは、まだ先のことですが、必ずや皆様は本学での教育を個性的に活かされることと確信しています。

そして、この4年間で最も衝撃的で忘れられない出来事は、2 年前の 3 月 11 日の東日本大震災でした。実家が被災した学生もいました。この大学では、その日 500 名ほどがこの講堂と体育館で夜を明かしましたが、この時私が実感したことは、このキャンパスに集う全ての人々の冷静さと寛容さでした。学生も教員も職員もそれぞれが適切に判断し、刻々と変化する状況に対応し、予測し、配慮をもって行動することで緊急の事態を乗り越えることができました。

思い出したくない災害ではありましたが、忘れられない出来事であり、このキャンパスに集う人々の豊かな人間性を実感し、誇らしく思えた貴重な経験になりました。

それ以上に、この出来事は大学という教育研究機関に身を置く私たちに、考え方の根本的な転換を強いることにもなりました。それは、大震災と、それに伴う原子力発電所の事故によるものです。私たちは、科学と技術の意味を改めて問わざるを得ない状況にあります。

近代以降、自然科学の発展は社会を質的に変化させました。自然は科学の探究によって次々と解明され、高度で精緻な技術の開発は、「第二の自然」とも呼びうる新たな環境を作り出してきました。情報化は時間と空間の隔たりさえも克服し、医療の進歩は生命の限界を拡大し、エネルギーは無限に供給されるかのようにさえ思わせる状況でした。ところが、科学技術の発展の中で、その恩恵に浴していた私たちは、予想をはるかに超える力が非情にも私たちの日常を瞬時にして破壊し、無に帰してしまうことを思い知らされたのでした。

日常性が危うさの上に成り立っていること、同時にそれがいかに貴重であるかも痛感させられました。

ただし、科学や技術そのものが非難されるべき対象なのではなく、科学的知識を駆使して開発した技術を、我々人間が、如何に利用し、如何に制御し、そして支配しうるかを見極めることが重要な課題になっています。

私たちは学問によって新たな可能性を追求する道を閉ざしてはなりません。科学技術がもたらす利点だけに着目するのではなく、科学技術が人間にもたらす光と影の両面を見極めるために、高度で専門的な知識を基盤としながら、多元的で複眼的な視点を働かせる必要があります。

科学技術がもたらす効果を盲目的に信じるのでもなく、また、忌避するのでもなく、人間の認識には限界があることを意識しながら、真の豊かさを探究することが必要なのであり、これは高等教育を受けた者の役割であり使命でもあるといえます。

とくに皆様は、物事を多角的に探究する方法を学び身につけているはずです。そのような人々の考え方や発言が、これからの社会では重要な役割を果たすに違いありません。本学で学んだことを、それぞれの仕方で効果的に活かす努力をしていただきたいと思います。

ところで、この講堂では、先週から今週にかけて附属学校の卒業式が連日行われてきました。附属学校の卒業生の総数は 442 名でした。幼稚園から高等学校までの児童、生徒が

この講堂から、新たな学びのステージへと歩みを始めました。

そして今日、お茶の水女子大学の学生 505 名が卒業の日を迎えました。これから皆様が進む新たなステージは、学びの場というより、これまでの学びを活かす「社会」という場です。しかも、社会は既に出来上がった空間なのではなく、皆様が新たに創り上げる場です。

社会の状況は極めて不透明で、経済情勢においても国際関係にも多くの課題が山積していますが、複雑化した問題を解決する糸口を見出し、社会を活性化させるために、今とくに期待されているのは、高度な教育を受けた女性の社会的活躍です。

女性の活躍が社会の活性化のカギをなすことは、昨年秋に東京で開催された IMF 総会の際に、「女性が日本の経済を救いうる」と語ったラガルド専務理事の言葉を始め、様々な場面で指摘されています。その理由は、従来の物の見方とは異なる新たな観点や考え方が今必要とされているからです。これまで十分に活かされてこなかった女性の活躍が、複雑な課題を解決するきっかけになると考えられているからだといえます。

本学のリーダーシップ教育は、この社会的な動向に沿ったものであり、既に皆様は様々な形でそのリーダーシップ教育に触れてきたことと思います。そのリーダーシップ教育も 4 年前に体系化し本格的に開始した教育プログラムですが、このプログラムで想定しているリーダーは、単に組織の長として、責任と権力をもった存在を意味するだけでなく、自らが属する場を担い、これを有効に機能させる存在です。重要なことは、確かな知識に基づいて、社会を新たな方向に導くことのできるリーダーです。

皆様が将来リーダー的役割を担ったとき、あるいはリーダーとなることを求められたとき、力を発揮する基礎は既に身につけているはずです。将来、可能性を実現させる準備は整っているに違いありません。このことは、既に多様な分野で社会をリードしている多くの卒業生の活躍からも明らかです。

今ほど女性の社会的活躍が期待されることはこれまでなかったようにも思います。この状況の中で、皆様が大学で習得し鍛え磨きあげてきた知を力として、豊かな未来を実現するために、最大限その力を発揮していただきたいと思います。

「人間の未来は、自然の出来事のようにおのずから生じるものではない。今、そして瞬間ごとに、人が為し、思惟し、期待することが、まさに人間の未来を築く根源となる」(K.Jaspers, Vom Ursprung und Ziel der Geschichte, 1949) といわれます。

人間の豊かな未来を築く役割が皆様には期待されているのであり、そのための力を皆様はこの大学で培ってこられました。その証しが、今お渡しした学位記です。その力を携えて、勇気をもって新しい可能性に挑戦していただきたいと願っています。

皆様とともにこの大学で 4 年の日々を過ごすことができましたことを感謝し、皆様の活躍を期待しながら、私はあと少しだけ、このお茶の水女子大学が、大学としていっそう発展するために、そして、本学で学ぶ学生がこの大学を一層誇りに思える大学とするために、力を注いでまいります。

本日ご卒業される 505 名の皆様の将来が輝かしいものでありますよう心から期待しております。

重ねてご卒業を心からお祝い申し上げ、告辞といたします。

まことにおめでとうございます。

平成 24 年度卒業式
学長告辞

学生のアクティビティ
公募による「学生自主企画プロジェクト」を実施しました

リーダーシップ養成教育研究センターは、学生の自主性と主体性を向上させることを通じてリーダーを育むために、2012年12月に公募による「学生自主企画プロジェクト」を実施しました。公募による学生自主企画の実施は本学初の試みです。試行的な実施の為、大変短い応募期間でしたが、多数の応募がありました。その中から、学部・学科・学年を越えた学生間のコミュニティーの形成およびお茶大キャンパスの活性化に寄与する企画ということで、次の3組のプロジェクトが選ばれ、企画実施費が授与されました。今回はプロジェクトを実施した学生からの報告をお届けします。

学士力ってどんな力？

—高等教育機関としての大学の社会における役割とその展望—

めまぐるしく変化する現代社会における大学の役割とは、そしてその大学において私達学生が得られる力=「学士力」とはどのようなものでしょうか。2012年12月15日(土)に開催した本シンポジウムは、この問いへの講演及び討論の場として設計しました。

第一部では、横浜市立大学より高野篤子先生、人事コンサルティングJoe's Laboより城繁幸先生、そしてお茶の水女子大学より半田智久先生をお招きし、ご講演をいただきました。高野先生は、大学の研究機関としての側面から、諸学問の基礎的な知識とそれを活用するための論理的思考力の養成を、城先生は、日本企業の終身雇用体制の限界という視点から、OJTに代る実務教育及び課題発見能力の育成を、半田先生は、大学進学率の上昇を受けて、個々の学生が自らの関心に向き合い個性を伸長させることへの支援を提唱されました。

第一部の講演の様子

第二部では、来場者13名と講師3名、そして我々主催学生3名全員が口の字型に座り、盛んに議論を交えました。就職活動を始めた大学生、社会に出たのち再び大学における学修を選んだ社会人入学生、改めて自身の大学生活を振り返る社会人、大学進学を目指す高校生など、さまざまな立場の人々による意見の交換は、通常の大学生活ではなかなか体験できない新鮮なものでありました。

白熱した3時間半はあっという間に過ぎ去り、全員の納得のいく「学士力」の定義を見出すには至りませんでした。しかしながら、今回のような学生主体の討論の場を設けることは、「学士力」の実践例の一つと言えるのではないでしょうか。

文責：吉岡悠紀子（文教育学部人文科学科3年）

半文半理ワークショップ

私たちは学生自主企画採択イベントの一つとして「半文半理ワークショップ」を開催しました。「半文半理（はんぶんはんり）」という単語は、様々な物事がもつ“文化的な背景”と“科学的な背景”の両面を一挙に学んでしまおうというコンセプトから名づけました。また、本企画では実物が目の前にあり、かつ、講師・参加者・企画者の三者が互いに活発に意見交換ができる体験型ワークショップを目指しました。今回は初めての試みでしたので、身近な「食」にスポットを当て、その中でも「発酵現象」に絞り込んだものをテーマとしました。私たちは2012年12月12日(水)に「香りで味わうお酒講座」（講師：冨岡伸一 様）、同月19日(水)に「発酵の魅力発見講座」（講師：福留奈美様）の2つの半文半理ワークショップを開催いたしました。五感を存分につかってお酒・味噌・醤油を体験する内容でした。両日合わせて60名近くの参加者が集まり、とても賑やかな雰囲気を作り出すことができました。

企画の際に苦労した点として、必要なヒト・モノ・ジカンのマネジメントが非常に難しかったことが挙げられます。これらは4人の企画メンバーと協力して解決することができました。良かった点としては、非常に多くの参加者に喜んでいただけたことです。テイスティングの際には、参加者の方々の会話が弾んでいる様子が見られました。また、アンケートでは90%以上の方に、「非常に満足・満足」との

「日本の貧困問題について考える」プロジェクト

「日本の社会問題を、より身近に！　―映画で学ぶ貧困問題―」

現在、日本は「5人に1人が生活苦」とよばれる時代です。背景には、社会保障制度の脆弱さ、周囲の無関心・誤解など、様々な要因があります。特に学生の間では海外の貧困問題への関心が強く、日本の貧困問題が軽視されていることを、私たちは痛感していました。

こうした現状を踏まえ、学生たちにもっと日本の貧困問題、ひいては様々な社会問題を身近に感じてほしいとの思いから、私たちはプロジェクトを発足し、ドキュメンタリー映画「渋谷ブランニューデイズ」の上映会と映画監督の遠藤大輔氏とのトークセッションを主催しました。

本企画を主催するにあたり、上映映画の選定、宣伝ポスターのキャッチフレーズ考案など一つひとつの作業について、私たちは、「どうすればより多くの学生に参加してもらえるか、そして貧困問題に関心を向けてもらえるか」を徹底的に考え抜くよう心がけましたし、そこが特に苦労した点でもありました。また、映画監督との打ち合わせでは、私たちは学生でもお客さんでもなく、大人の企画主催者として監督と交渉し、非常に貴重な経験ができました。その結果、本企画当日（12 月 19 日（水））のアンケートでは参加した学生のみなさんから「有意義なイベントだった」「勉強になった」といった意見を多くいただくことができ、本企画の目的を達成するとともに、私たちも大きな喜びを得ることができました。

参加者の質問に答える遠藤大輔氏

この自主企画プロジェクトは、普段の学生生活でのイベント企画とはまた違った経験ができる貴重な機会を与えてくれました。もしまたチャンスがあれば、次回は集客力向上を含め、より多くの学生に私たちのメッセージを届けることを意識して企画をしていきたいと思います。是非、今後も多くの学生に自主企画プロジェクトに携わり、より実りある学生生活を送ってほしいです。今回私たちの企画を採用・サポートしてくださった皆さま、本当にありがとうございました。

文責：中原千佳（文教育学部人間社会科学科 3 年）

「香りで味わうお酒講座」会場の様子

「発酵の魅力発見講座」でテイスティングした麹・味噌サンプル

解答をしていただくことができました。他にも「これから活かせる知識」「とてもわかりやすく、勉強になった」「文化の変遷も興味深かった」等の声や、次の半文半理ワークショップのテーマとして、和食・化粧品・お茶・脳等々の案が寄せられました。また機会があれば今回のアンケート結果をふまえつつ、より文理を問わず様々な方に参加していただける「半文半理ワークショップ」を実施していきたいと考えています。

文責：市木祥子（理学部生物学科 3 年）

教員紹介

今回は、人間文化創成科学研究科文化科学系准教授の松岡智之先生をご紹介します。
松岡先生は、大学院では比較社会文化専攻日本語日本文学コース、また学部では文教育学部言語文化学科日本語・日本文学コースにご所属です。

実家依存はふつうです（ただし千年前）

Matsuoka Tomoyuki
松岡　智之

Q ご出身、ご経歴などについて教えてください。

地元は神奈川県の逗子市です。大学、大学院の頃は、自宅から都内に通っていました。大学は早稲田大学の第一文学部、大学院は東京大学の人文社会系研究科です。昨年（2012 年）４月にお茶大に着任するまでは、11 年間静岡大学教育学部に勤めていました。教員養成の学部です。お茶大の前身は東京女子師範学校なので、「旧師範」にご縁がある気がします。また、静岡在住が長かったので、東京は寒いと思ってしまいました。

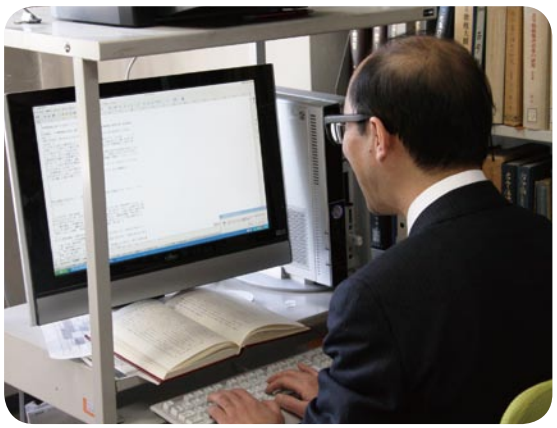
Q ご専門の内容について、また今の研究分野に興味を持ったきっかけについて教えてください。

『源氏物語』をはじめとする平安時代の日本の古典文学を専門にしています。年がら年中「古文」を読んでいます。古典語の文章は、何十年読んでいてもやはり難しい。しかし、そうであるだけに、文章がわかってくる感じ、が他に代えがたくもあります。難解な数行の言葉を、長い時間をかけて何度も何度も読んでいると、はじめは取っつきにくくて、遠くにあったような文章が、ああそういうことかとわかる。これがじつに楽しい。

なぜ『源氏物語』だったのかといえば、作品世界が好きだからです。光源氏たちの世界には、暴力的な殺人や戦争はなく、洗練された優美な文化がある。もちろん、嫉妬や不安などはたっぷりと描き出されますが…。作中人物に、藤壺、紫の上、明石の君、葵の上、六条御息所、空蝉、末摘花、玉鬘、宇治の三姉妹など魅力的な女性が大勢いて、その一人ひとりが個性的に描き分けられています。人間のパノラマです。おもしろいですよ。また、うねうねとした濃密な文体がやみつきになります。すっきりした文章が好きな人には悪文と見えるでしょうが、私ははまってしまいました。

Q 現在･今後の研究内容についてご紹介ください。

女子大の教員になったためか、これまで以上に、女性の側から多様な視点で文学作品を考えたいと思うようになってきました。例えば、平安貴族社会では、夫実家に妻が同居という結婚形態がなく、通い婚、夫婦同居いずれにしても「妻」は義理の親と同居しませんでした。特に通い婚ならば、妻の実家で子育てです。「実家依存」が当たり前でした。実家と一体の妻がいる一方、夫との関係は、ご存じのように、一夫多妻です。しかし、夫に執着のない人にとっては、これはこれで案外暮らしやすかったかもしれない。そう思うと、夫と息子のこと満載の『蜻蛉日記』があり、夫・息子の影が薄い『更級日記』もあるという平安時代の文学状況が、改めて興味深く思えてきます。



お茶大の印象、学生に向けてのメッセージをお願いします。

お茶大生は、上品で明晰な人が多いと思います。また、何より文章を書くことが好きな人が多くてうれしく思います。試験答案やレポートを読むのを楽しんでいます。

文責：西川朋美
（大学院人間文化創成科学研究科
文化科学系助教）

卒業生紹介

20代の夢を追いかけて　～日本の食文化を世界へ紹介～

Fukutome Nami
福留 奈美

フードコーディネーター／
メニュープランナー

高知県高知市生まれ。1989年お茶の水女子大学家政学部食物学科卒業後、同大大学院に進み、家政学修士を取得。2003年同大大学院人間文化研究科人間環境科学専攻入学。2012年博士後期課程修了、学位取得。海外の研究会に招かれ、日本の食文化に関する講演も行っている。

女性の憧れの職業として近年ますますフードコーディネーターの人気が高まっている。今回は、フリーランスで、料理とお酒のセミナーやテイストワークショップの企画、料理教室講師、地域開発メニューの提案など幅広く活躍する福留奈美さんを訪ねた。

フランス留学が転機に

「ほうれん草を食べるとき、フランス人はくたくたに煮たのが好きで、日本人はしゃきしゃきが好きなのは、どうして?」そんな、国や人によって違うおいしさの基準を、科学的に数量化してとらえようとする調理学という学問分野がある。福留さんはこの分野の調査研究のため、修士在学中に一年間をフランスで過ごした。学部時代に一度は海外に出たいと思っていたが機会を逸し、「モラトリアムの気持ちで修士に進んだ」と言う福留さんに、指導教官から「フランス関係のテーマをやってみないか」と勧めがあった。「渡りに船」とはまさにこのこと。福留さんの食に関するキャリアが始まった瞬間だった。

フランスの成熟したレストラン文化に魅了された福留さんは、レストランを作る仕事に携わりたいと思い帰国。まずは、小さな業務用厨房デザインのコンサルタント会社に就職し、飲食店開業のノウハウの基礎を学んだ。現場を知るためにフランス料理店でのサービスの経験を経て、28 歳のときフードコーディネーターとして独立。しかしフリーの仕事は実績だけがものを言う。「若い今しかない」と思い、早朝から深夜まで業種の違う飲食店でアルバイトをかけもちし、調理師学校などで非常勤講師として教える仕事も始めた。働きながら、ソムリエ、きき酒師、フラワーデザイナーなどの資格を取得。20 代後半から 30 代にかけてのがむしゃらな 10 年間を、「学びながらキャリアを積んだ修業時代」と、福留さんは振り返る。

ライフワークへの道

「自分にしかできないことを探したい。」TV や雑誌の仕事も担当するようになりフードコーディネーターとして順調に活躍の場を広げるなかで、福留さんはいつしかそう思うようになっていた。「調整・サポート役が向く自分には、現場の黒子役であるフードコーディネーターはぴったりの仕事。それにプラスして、自分自身の言葉で発信することもしたい。そのためには自分の専門分野を固めなければ」と考え、2003 年、博士号をとるために 11 年ぶりに母校の門をくぐる。昨年、調理における沸騰状態が日英中三か国語でどう表現されるかを比較対照する調理用語・表現の研究で博士（学術）を授与された。フードコーディネーターとして日々新しいレシピを生み出す中で、調理のコツを誰にでもわかりやすく伝えるためにレシピ表現の標準化が必要だと感じ、この研究に辿りついたという。

いま、福留さんはフランス留学時代に夢見た「日本の料理や食文化を海外に正しく伝えること」をライフワークに据えて活動している。「20 代はあれもこれもと手を広げ、何をするつもりかと日々悩んでいました。でも、その経験が土台となって、いまやっと進む道が見えてきたところです。」学会発表や共同研究を通じて海外でもアカデミックな人脈がひろがり道が拓き始めている。4 月と 5 月にはアジアの学術研究会で、日本食、日本酒などをテーマに講演とテイスティング会を行う予定だ。

流れる水のように歩みつづける

二人のお子さんにも恵まれ、仕事、子育て、学びを続けてきた。「時間に追われ、すべてが中途半端で落ち込む時もあります。夫や近くに住む夫の両親の助けがあってのことなので、家族に反対されることはせず、甘えられるところはすべてまかせてがんばりすぎないようにしています」と、しなやかに構える姿勢が両立の秘訣だろう。仕事の上では「自分にとって、相手にとって意味のある仕事か、内容か」を自問自答することを常に心がけている。自分の中での価値付け、意味付けを意識することで、果たすべき責任、なすべき仕事が見えてくるからだ。

福留さんは今 46 歳。人生の区切りを 20 年単位で考えている、意識が固まる 5 歳から 25 歳は学校での学びと体験、25 歳から 45 歳は社会での学びと修業。自分探しの旅を終えて、いま、自分がなすべき仕事をする 20 年がやっと始まったところだと感じている。好きな言葉は「流水不腐」。流れる水は淀むことなく腐らないという意味の中国の言葉だ。「これからの 20 年も、新しいことを追いかけてどんどん流れていきたい。」これが福留流ライフスタイルなのかも知れない。

文責：坪田秀子（学長特命補佐）

わたしのオフタイム

普段一緒に過ごす時間が少ない子どもたちとお菓子や料理を作ったり、家族が大勢集まっての食事会で料理の腕をふるうのがストレス解消になっている。好物は漬物。郷里の高知で、祖母が毎日食卓に出してくれたぬか漬けは、食の原点となったソウルフードだ。

附属学校園からのお知らせ

いずみナーサリー便り

―お弁当からはじまる― いずみナーサリーの食育

3 歳未満児の保育所、附属いずみナーサリーの『食育』の取り組みについてお伝え致します。

野菜を育てる

5月、ナーサリーのテラスや駐輪場のプランターにナス・ピーマン・プチトマトの苗を植えます。2歳児が毎日水やりをしてトマトの小さな青い実がなると、興味を示した1歳児が実を取ります。「赤くなって大きくなったら食べようね」この言葉を何度も繰り返し、やっと収穫の時期になり、2歳児は嬉しそうに触れて「赤くなった！大きいね」、茄子のへたの部分を「トゲトゲがある」、ピーマンは「つるつるだね」とその感触を言葉で表現します。

収穫した野菜はテーブルを囲んで子ども達の目の前で保育士が調理します。

包丁の音、野菜を炒める音、味噌の匂いが室内に漂い、その場で口に入れた時のあつあつ感、「おいしい！」「ちょっとからい（苦い）」そんな言葉が聞かれます。後日、保護者から「家で食べなかった茄子を食べるようになりました」と嬉しい報告を受けます。

夏、子ども達がおやつに食べるトウモロコシの皮をむきます。緑の皮を何枚もむき、黄色の実が現れた時には「出てきたー」「コーン」と笑顔がこぼれます。トウモロコシの食べ方が分からなかった子ども達も回数を重ねると、かじりつくようになりました。

生活の中で本物に出あい、五感を使った体験が食べ物への関心につながるのでしょう。

学生によるカレー作り

『食育』の取り組みに、食と栄養に関するサークル “Ochas” の学生は欠かせない存在です。おやつの献立作成、おやつ便りの発行、保育士と共におやつ作りや行事食の企画もしています。中でも夏野菜カレーパーティー、クリスマスカレーは子ども達だけでなく、普段、お弁当作りをしている保護者の方からも好評です。

Ochasのカレーはアレルギーのお子さんに配慮した小麦粉・バター・牛乳を使わない、優しい味のカレーです。

調理の前に子ども達は材料の野菜に触れ、2歳児は玉葱の皮むきに挑戦。「あ！白いのが見えてきた」「目がチクチクする」初めての経験です。そして、調理をするOchasの学生の包丁の音、カレーの匂いに引き込まれます。

学生によるカレーライスのパネルシアターを見て、美味しいカレーを食べますが、自分で玉葱の皮をむいてお手伝いしたカレーの味は格別です。

学生による食事の懇談会

クリスマスカレー

本学大学院生（管理栄養士）が講師となり、乳幼児期の塩分摂取量やバランスの良いお弁当について、保護者向けに食事の懇談会をしています。乳幼児に適した味噌汁の試飲で保護者の方々は味の薄さに驚き、「塩分の多く入っている“だしの素”でなく、旨味の出るだしを使うようにしたい」との感想が聞かれました。

ナーサリーでは週2回、御飯・味噌汁を提供していますが、この日は鰹節、昆布のだしの匂いが室内に広がります。味噌汁があることで食が進み、友だちと同じ物を食べることは食への意欲につながっています。

食事の役割は、栄養摂取だけでなく安心できる人と楽しく食事ができ心も満たされることです。よく眠って、よく遊んで、『食べるの大好き』な子ども達に育つことを願っています。

24年度にナーサリー独自の食育カリキュラムを作成し、学生との食育実践と共に『お弁当から始まる、いずみナーサリーの食育～学生と共に～』として冊子にまとめました。（お茶の水女子大学附属図書館TeaPotより閲覧可能）

附属学校園での出来事（2013年1月～3月）

【いずみナーサリー】

1月
- 附属高校2年生「家庭総合」保育見学開始
- 避難訓練(火災訓練)

2月
- 多摩美術大学との協働アート活動
- 避難訓練

3月
- 親子で遊ぼう会
- 避難訓練

【附属幼稚園】

1月
- 第3学期始業式
- 鏡開き(お汁粉パーティー)
- 誕生会
- 学級懇談会
- 附属高校2年生「家庭総合」保育参観開始（計6回）
- 親子体操の会　講師　佐藤弘道氏
- 園外保育（5歳）上野動物園

2月
- 豆まき
- 親子で遊ぶ日（3歳）
- 公開保育
- 避難訓練
- PTA主催講演会
- 誕生会

3月
- 雛祭り
- 誕生会
- お楽しみ会(5歳)
- PTA総会・全体保護者会
- 卒業式・終業式

【附属小学校】

1月
- 第3学期始業式
- 避難訓練
- 茗鏡会ニューイヤーコンサート
- 委員会活動（5・6年生）
- まきば会<父親の会>文京区合唱の集いに参加
- 通学班別会

2月
- 委員会活動（5・6年生、4年生見学）
- 避難訓練
- 公開研究会
- 縦割り班活動
- 郊外園活動（5年生ジャガイモ植え）
- 関係者評価委員会・学校評議員会

3月
- 授業参観
- 保護者総会・かがみ会総会
- 6年生雪の学校（妙高高原国民休暇村宿泊）
- 卒業おめでとうの会
- 卒業式
- 終業式

【附属中学校】

1月
- 冬休み終了
- 特別時間割期間・授業参観週間

2月
- 中学校入学検定（一般学級・帰国学級）
- 学校評価委員会、学校評議員会
- 期末テスト
- 避難訓練

3月
- 3年生保護者会
- 2年生郊外園
- 歓送会
- 卒業式
- 終業式

【附属高校】

1月
- 3学期始業式
- 2年保護者会
- 3年センター試験自己採点
- 1年・2年学力テスト
- 1年保護者会
- 2年「家庭総合」ナーサリー・幼稚園参観

2月
- 合唱コンクール
- 関東地区附属高校副校長研修会

3月
- 新入生・説明会
- 期末試験
- 学校関係者評価委員会
- 学校評議員会
- 1年農場実習
- 餅つき大会
- 歓送会
- 卒業式
- 終業式

附属学校園からのお知らせ

キャンパス点描

A－WiLシンポジウム「グローバル女性リーダーが未来を創る ー お茶の水女子大学からの発信ー」を開催しました

2013年1月22日(火)にお茶の水女子大学主催のA－WiLシンポジウム(※) 「グローバル女性リーダーが未来を創る－お茶の水女子大学からの発信－」を開催しました。

本シンポジウムは、女性リーダーの育成事業の一環として、現代の大学教育に女子大から一石を投じることを目指しています。

当日は、本学の学生、一般の方あわせて約150名の来場者を迎え、会場は満員となりました。

前回のシンポジウムの「未来から今を考える」というテーマに対し、今回は「未来を創る」という、より積極的・具体的なテーマを掲げ、グローバルに活躍する女性とはどのような存在でありうるか、未来の女性リーダーとして学生が持つべき志や学んでおくべきことは何かを具体的に議論する機会にしたいという羽入学長の宣言により、シンポジウムがスタートしました。

【基調講演】

基調講演として、日本を代表するグローバル企業のひとつである三井物産株式会社の取締役会長である槍田松瑩氏よりお話をいただきました。槍田氏はグローバル化とは様々な文化や考え方が混ざり合っていく不可避の流れであり、私たちは世界に誇るべき日本人特有のあり方をしっかりと残しつつも、時代や環境の変化に対応していかねばならないと話されました。人として生み出すべき本質に男女の違いはなく「自らを磨き、個を確立する」ことが大事であると強調されていたことが印象的でした。

「OGとの交流会～face-to-faceで語ろう」が開催されました

2013年1月22日(火)にA-WiLシンポジウムのポストイベントとして、「OGとの交流会～face-to-faceで語ろう」が開催されました。この交流会は、本学初の試みであり、在校生・卒業生・教職員のネットワーキング構築への第一歩となることを願って企画されたものです。

今回お声をかけた卒業生は教育関係（中学校、高等学校）、行政、企業にお勤めの方々で、当日は約35名の方が交流会にご出席くださいました。在学生は学部1年生から修士課程1年までの40名と、教職員あわせて総勢70名以上が集う会となりました。

この交流会に参加した理由として、学生からは「就活中で良い刺激になると思った」「ロールモデルのお話をうかがいたかった」「人脈が広がると思った」「大学のOGの方と交流する機会はほとんどないので、今回を通じて人脈が広がると思った」などの意見があり、今後の人生を真摯に考える上で、先輩からのアドバイスを求めて参加した学生が多く見られました。

一方、卒業生として参加した方々からは、「何らかの形で在学生のお役に立てればという気持ちから」「後輩たちの今後の選択のアドバイスになればと思って」「楽しそうだったから、若い人と話をする機会はステキだと思います」「大企業でなくとも面白い仕事があることを伝えたかったから」「交流会というものがあったらいいなと常々思っていたので」などの理由で、在学生との交流を通じて母校に貢献したいと考えていらっしゃる様子でした。

参加した学生からは「様々なジャンルで活躍されている先輩方の姿を見ることができ、励みになりました」や「丁寧にお答え頂き、とても親切に知りたいことを引き出してくださった」との感想も聞かれ、和やかな雰囲気の中、卒業生から良いアドバイスを直接いただくことができたようです。

夕方遅くからの開催であった為、1時間半の交流となりましたが、それでは足りない、もっと長く話したいという声もとても多く、大盛況に終わりました。

終了後のアンケートでは、「とても良かった」「良かった」と答えた参加者が95%を占め、「次回も参加したい」という意欲的な参加者が大半となり、非常に満足度の高い結果となりました。

今後もこのようなOGとの交流会を継続していきたいと考えております。どうぞ奮ってご参加ください。

【パネルディスカッション】

続いて、まさに現役のグローバル女性リーダーとして活躍されている國井秀子氏 （リコーITソリューションズ株式会社取締役会長執行役員）、橘・フクシマ・咲江氏（G&S Global Advisors Inc. 代表取締役社長）、原山優子氏（東北大学大学院工学研究科教授、前OECD科学技術産業局次長）の御三方をパネリストに迎えディスカッションが行われました。私たちが未来のグローバル女性リーダーとして活躍していくためには「多様な考え方を身につけ、 変化に対応すること」（國井氏）、「自立と自律という2つのジリツを獲得すること」（橘氏）、「自らアクションを起こすこと、 失敗から学ぶこと」（原山氏）が重要であるという、 経験と実績に裏打ちされた力強いメッセージを頂きました。また、各人5分程度ととても短い時間でのお話でしたが、聴衆に語りかけ惹き込む対話力や要点を的確に整理し話をまとめるタイムマネジメントスキルは言葉を超えた説得力をもって私たちに響き、ロールモデルとして強い憧れを抱きました。

その後の質疑応答においても、学生をはじめ多くの参加者の方々から多岐に渡る質問が寄せられました。パネリストの御三方もとても真摯に答えて下さり、短いながらも非常に濃い対話ができたように思います。質問していた学生もユニークな取り組みをしている人ばかりで、素直に凄いと感心させられる一方で、彼女たちが不安に思っていることや悩んでいることは私自身の問題意識とも共通点が多く共感を覚え、未来を担う同世代として自分も負けてはいられない、一緒に頑張っていこうと発奮させられました。

何者になるのであろうと、変化の中に身を置くことを恐れず日々の主体的な行動を積み重ねていくという姿勢こそが普遍的に重要であり、それがまさに「未来を創る」ということの内実ではないかと感じました。そして、そのような姿勢を周りに率先して示し続けた先にある存在こそが目指すべき「グローバル女性リーダー」像ではないでしょうか。私は今までこういったイベントに参加したことは殆どありませんでしたが、今回のシンポジウムからは多くの素晴らしい学びを得ました。普段あまりこのようなイベントに興味が持てないそういうお茶大生のみなさん、次回はぜひ参加してみてはいかがでしょう。

※ 「A-WiL」とは、お茶の水女子大学の事業「女性リーダーを創出する国際拠点の形成」（文部科学省特別経費 平成22年度～平成27年度）の略称で、その英語名「International Research Program for the Advancement of Women in Leadership」に基づいています。

文責：伊藤みずほ
（大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程 ）

「東日本大震災に関連した緊急を要する調査・研究課題の中間報告会」を開催しました

２０１３年1月２３日（水）に「東日本大震災に関連した緊急を要する調査・研究課題の中間報告会」を開催し、学内、一般の方をあわせて約５０名が参加し、活発な意見交換がなされました。

本報告会は、東日本大震災に対する緊急的な支援活動ならびに震災復興に関連した調査・研究について継続的に続けてきた取組みや研究成果を報告してもらい、今後、震災復興に対して大学がどのように立ち向かうべきか、何ができるのか、何をしなければいけないのか、といった議論を深めるために行われました。

「大学での研究を社会に向けて提案していくことで、災害に対する準備が可能になっていくものと思われます。今回は中間報告ですが、今後具体的な提案が出来るように大学としても協力していきたい。」との羽入学長の言葉で締めくくられました。

メディア報道記録

メディア報道記録 2012 年度（抜粋）

●**2012年4月17日**　読売新聞
最先端研究子どもに解説:
文京 区内大学から講師派遣

●**2012年4月20日**　産経新聞
小･中学生向け科学カレッジ:
文京､区内の4大学と連携
理科離れを食い止めろ

●**2012年4月20日**　日刊工業新聞
女性研究者の復帰支援制度:
お茶の水女子大

●**2012年4月25日**　東海新報
観光活性化のヒントに:
住田の農家で東京の中学生が
民泊体験

●**2012年4月25日**　岩手日報
牛の世話 驚き､新鮮:
東京の中学生 住田で体験

●**2012年4月27日**　日本経済新聞
子ども向けに科学教室:
文京区、東大などと連携
古田悦子講師

●**2012年5月1日～11日**
日本経済新聞
やさしい経済学: 女性のキャリア
と出産1～8
永瀬伸子教授

●**2012年5月 9日**　読売新聞
大学再生: 課題に挑む1
耳塚寛明理事･副学長

●**2012年 5月18日**　福井新聞
管理職育成へキャリア教育:
女性社員パワーアップ
望月由起准教授

●**2012年5月18日**　読売新聞
芸術音楽の役割考え抜く:
近藤譲氏､米アカデミー就任式
近藤譲教授

●**2012年6月18日**　日本経済新聞
寮生活で協調性磨く:
就活にもプラス
異文化学び価値観も広がる
耳塚寛明理事･副学長

●**2012年6月25日**　毎日新聞
学校の風景140年:校歌
歌詞に込めた思い脈々と
鷹野景子副学長

●**2012年7月 5日**　読売新聞
ロレアル賞に4人
大学院理学専攻　工藤まゆみさん

●**2012年7月19日**　岩手日報
理科教育で復興支援
県教委とお茶の水女子大
耳塚寛明理事･副学長

●**2012年7月25日**　長野日報
お茶の水女子大生諏訪地域で実習:
5テーマを調査
長谷川直子准教授

●**2012年7月27日**　日刊工業新聞
被災地教育委員会と連携:
お茶の水女子大 理科教育を支援

●**2012年7月31日**　読売新聞
論点: 規制偏重に限界
化学物質 社会で管理
増田優教授

●**2012年8月11日**　日本経済新聞(夕刊)
海外留学 留年気にせず
単位認定を緩和

●**2012年8月22日**　毎日新聞(夕刊)
ママさん博士発掘:
「一線復帰」を支援 お茶の水女子
大 特別研究員受け入れ
小泉美和子みがかずば研究員
鷹野景子副学長

●**2012年8月28日**　読売新聞
第24回日本ファンタジーノベル大
賞 優秀賞2作
書き続けて良かった 三國青葉さん
「朝の容花」
三國青葉(卒業生)

●**2012年8月29日**　房日新聞
館山 児童らの自由研究サポート:
お茶の水女子大研究センター
清本正人准教授

●**2012年 9月 6日**　読売新聞
学生寮の教育的効果と課題:
全国の大学関係者でシンポ
耳塚寛明理事･副学長

●**2012年9月12日**　愛媛新聞
学生寮: 人間形成機能に注目
耳塚寛明理事･副学長

●**2012年9月16日**　東京新聞
こちら特報部:「暴力放置しない
で」
戒能民江名誉教授

●**2012年9月17日**　日本経済新聞
学生寮､規律継承カギ: お茶の水
女子大でシンポ

●**2012年9月18日**　毎日新聞(夕刊)
読書日和: 高野史緒さん
名作の続編ミステリーとして描き
乱歩賞受賞
高野史緒(卒業生)

●**2012年9月28日**　日刊工業新聞
グローバル人材育成
文科省、42 件採択

●**2012年10月1日**　日本経済新聞
議論しやすく図書館進化:
共同学習スペース登場

●**2012年10月5日**　読売新聞
子ども: ウソつく心をくむ
内田伸子名誉教授

●**2012年10月20日**　読売新聞
黒田教授に女性科学賞
東京理科大学教授
黒田玲子さん(卒業生)

●**2012年10月30日**　毎日新聞
ロレアル科学賞に黒田玲子教授
東京理科大学教授
黒田玲子さん（卒業生）

●**2012年11月6日**　産経新聞
生活者目線のIT住宅: お茶の水女
子大が研究成果公開
椎尾一郎教授

●**2012年11月13日**　毎日新聞
T-WAVE: 生活者視点でIT住宅
お茶の水女子大の研究公開
椎尾一郎教授

●**2012年11月21日**　三陸新報
幼児教育など支援期待:
気仙沼市教委 お茶の水女子大と
協定
羽入佐和子学長
耳塚寛明理事･副学長

●**2012年11月22日**　朝日新聞
学生寮 多彩にチェンジ:
企業が参入､新タイプ続々
望月由起准教授

●**2012年11月23日**
The Japan Times
The University Times
University's Challenge:
国際交流に取り組む大学
羽入佐和子学長

●**2012年12月5日**　毎日新聞
ひと:「ロレアル－ユネスコ女性科
学賞」を受賞した黒田玲子さん
東京理科大学教授
黒田玲子さん(卒業生)

●**2012年12月9日**　毎日新聞
2012衆院選 選択の手引:
働く母どう支える
菅原ますみ教授

●**2012年12月11日**　朝日新聞
読書マラソンコメント大賞決まる
生活科学部食物栄養学科
石川千秋さん

●**2012年12月21日**　日刊工業新聞
生物由来の化合物 疼痛鎮める作用
室伏きみ子教授

●**2013年1月 7日**　毎日新聞(夕刊)
就活生の悩み調査:
NPO 心のケアも
耳塚寛明理事･副学長

●**2013年1月14日**　毎日新聞
学ぶ･育てる:
イクメン化 一方､孤立も
菅原ますみ教授

●**2013年1月14日**　日刊工業新聞
Books:新成人に薦めるこの一冊
2013『チボー家の人々』
室伏きみ子教授

●**2013年1月18日**　日刊工業新聞
レーザー: 被災児支援に奔走
室伏きみ子教授

●**2013年2月 2, 9日**　東京新聞
生きる:道元に学ぶ生き方(上)(下)
頼住光子教授

●**2013年2月11日**　日刊工業新聞
Books: 若い女性へのエール
『キュリー夫人伝』
郷通子名誉教授

●**2013年2月13日**　房日新聞
館山 生き物の科学に驚き:
ウニの生態実験など学習
サイエンス講座に親子ら21人
清本正人准教授

●**2013年2月16日**　房日新聞
館山 お茶の水女子大と協定:教育
活動の発展に相互支援
羽入佐和子学長

●**2013年2月19日**　日本経済新聞
経済教室:働き方を変える(上)
「総合･一般職」の選択柔軟に
永瀬伸子教授

●**2013年3月21日**　朝日新聞
教育の平等 細る期待:
広がる格差社会「学歴神話」崩壊
耳塚寛明理事･副学長

TV

●**2013年2月12日**
NHKニュース「おはよう日本」
鷹野景子副学長､大槻曜生
特別研究員(みがかずば研究員)

●**2013年3月12日**
NHK「クローズアップ現代」
塚田浩二研究員(JST研究員)

研究表彰等受賞者一覧 2012年度（抜粋）

(1)教職員

●**(財)飯島記念食品科学振興財団 平成23年度飯島食品科学賞**
大学院人間文化創成科学研究科
香西みどり教授

●**春の叙勲　瑞宝中綬章**
伊藤厚子名誉教授

●**情報知識学会 第9回論文賞(2012)**
リーダーシップ養成教育研究センター
大槻明講師

●**第30回月刊『水』論文賞**
大学院人間文化創成科学研究科
大瀧雅寛教授

●**第11回リバネス研究費 editage賞**
リーダーシップ養成教育研究センター
大槻明講師

●**公益社団法人日本動物学会 平成24年度 Zoological Science Award**
理学部生物学科　最上善広研究室

●**公益社団法人日本動物学会 平成24年度女性研究者奨励OM賞**
湾岸生物教育研究センター
廣瀬慎美子特任講師

●**2012年イグ・ノーベル賞**(Acoustics Prize:音響学賞)
お茶大アカデミックプロダクション(JST研究員)　塚田浩二研究員

●**第34回日本臨床栄養学会総会・第33回日本臨床栄養協会総会 第10回大連合大会 若手奨励賞**
生活環境教育研究センター
曽根保子助教

●**The National Council on Family Relations(NCFR) 2012 Jan Trost Award**
大学院人間文化創成科学研究科
石井クンツ昌子教授

●**内閣府男女共同参画局 第1回「カエルの星」**
リーダーシップ養成教育研究センター

●**第6回「未来を強くする子育てプロジェクト」 スミセイ女性研究者支援**
リーダーシップ養成教育研究センター
中村(コンペル)綾乃特別研究員

●**第32回山川菊栄記念婦人問題研究奨励金**(通称山川菊栄賞)
ジェンダー研究センター
徐阿貴講師(研究機関研究員)

●**平成24年度(第63回)芸術選奨文部科学大臣新人賞**
比較日本学教育研究センター
清水恵美子研究協力員

(2)学　生

●**文部科学省 理数学生応援プロジェクト『理系女性の意欲と個性に根ざした複線的教育』 優秀研究賞**
理学部生物学科
高橋志帆さん　川井優里さん
小山香梨さん　杉井昭子さん
松村千汎さん
理学部情報科学科
田中リベカさん　小池恵里子さん
理学部物理学科
野中杏菜さん　八木澤唯さん

●**医療法人財団岩井医療財団 岩井整形外科内科病院 新病院建築企画提案コンペティション 優秀賞**
大学院ライフサイエンス専攻
申純琦攻さん　菅沼麻結美さん
知覧彩香さん　新田かおるさん
平井悠さん
生活科学部人間・環境科学科
谷本実優さん(代表)
菊地美来さん　高木友理さん
戸羽美佳さん　松尾慶子さん
馬上涼子さん　山根麻里さん

●**社団法人人工知能学会 2011年度研究会優秀賞**
大学院理学専攻　北島理沙さん

●**2012年度 第7回「ロレアル-ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」**
大学院理学専攻　工藤まゆみさん

●**DICOMO2012 優秀プレゼンテーション賞**
大学院理学専攻　平井弘実さん
ヤングリサーチャ賞
大学院理学専攻　菱沼直子さん

●**第25回全日本高校・大学ダンスフェスティバル 特別賞(ロスカルチャーへの新しい挑戦)**
文教育学部芸術・表現行動学科
舞踊教育学コース

●**第46回読書科学研究奨励賞**
大学院比較社会文化学専攻
田川麻央さん

●**NICOGRAPH 2012 最優秀論文賞**
大学院理学専攻　金子彩香さん

●**28th annual meeting of the American Society for Gravitational and Space Research (ASGSR12) 2nd place in the Fluids Category Poster Competition**
大学院ライフサイエンス専攻
鹿毛あずささん

●**程ヶ谷基金「男女共同参画・少子化に関する研究活動の支援、並びにこれに関する顕彰事業」 最優秀賞**
大学院ジェンダー学際研究専攻
寺村絵里子さん

●**DEIM 2013（第5回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム） 学生プレゼンテーション賞**
大学院理学専攻
平井弘美さん　八木佐也香さん

●**ARG第1回Webインテリジェンスとインタラクション研究会 学生奨励賞**
大学院理学専攻　北島理沙さん

●**第6回「未来を強くする子育てプロジェクト」 スミセイ女性研究者支援**
大学院比較社会文化学専攻
田川麻央さん

●**日本家政学会関東支部第15回家政学関連卒業論文・修士論文発表会 修士論文の部優秀賞**
大学院ジェンダー社会科学専攻
松井由香さん
卒業論文の部優秀賞
生活科学部人間生活学科
三井恵理子さん

●**日経STOCKリーグ第13回レポートコンテスト 最優秀賞・金融大臣賞受賞**
附属高校
竹端樹里さん(リーダー)
浅原菜穂さん　太田原奈都乃さん
加藤杏さん　平田桃さん

●**芸術科学会 映像表現・芸術科学フォーラム2013企業賞(Wacom)**
理学部情報科学科4年　小池恵里子

●**情報処理学会第75回全国大会学生奨励賞**
大学院理学専攻
唐石景子さん　一瀬詩織さん
立川華代さん　長谷川友香さん
理学部情報科学科
日開朝美さん

(3)本学出身者

●**E-Learn 2012 conference Outstanding paper award**
大学院国際日本学専攻修了
高橋薫さん

●**2013年度「ロレアル-ユネスコ女性科学賞」**
理学部化学科卒業　黒田玲子さん

●**日本自律神経学会 平成24年度第10回日本自律神経学会賞(基礎部門)**
大学院ライフサイエンス専攻修了
原早苗さん

●**第11回日本社会学会奨励賞(著書の部)**
大学院比較社会文化学専攻修了
中村英代さん

●**NICOGRAPH 2012 最優秀論文賞**
大学院理学専攻修了
中村友香理さん

●**第1回第二言語習得研究会 佐々木嘉則賞**
大学院国際日本学専攻修了
橋本ゆかりさん

主要行事予定 2013年度

4月 4日　入学式
4月 5日　新入生オリエンテーション(～9日)
4月 8日　新入生セミナー(～9日)
4月11日　前学期授業開始
4月20日　大学院オープンキャンパス
4月29日　通常授業開講
5月14日　名誉教授懇談会
5月31日　開学記念日
6月26日　理学部・生活科学部編入学試験日(～27日)
7月 4日　理学部・生活科学部編入学試験合格発表
7月13日　学部オープンキャンパス(～15日)
7月30日　前学期末試験・補講日(～8月5日)
8月 6日　夏期休業開始
8月12日　夏季一斉休業(～14日)
8月22日　博士前期課程8月入試日(～23日)
8月30日　博士前期課程8月入試合格発表
9月 5日　博士後期課程9月入試日(～6日)
9月13日　博士後期課程9月入試合格発表
9月30日　9月卒業式
　　夏期休業終了
10月 1日　10月入学式
　　後学期授業開始
10月 2日　AO入試1次合格発表
10月 5日　文教育学部・生活科学部編入学1次試験日
10月16日　文教育学部・生活科学部編入学1次合格発表
10月18日　AO入試日(～19日)
10月23日　AO入試合格発表
10月30日　文教育学部・生活科学部編入学2次試験日
11月 7日　文教育学部・生活科学部編入学合格発表
11月 9日　徽音祭(～10日)
11月20日　奨学金授与式
　　推薦入試等1次合格発表
11月22日　永年勤続表彰式
11月29日　創立記念日
11月29日　推薦入試等試験日(～30日)
12月12日　推薦入試等合格発表
12月26日　冬期休業開始

2014年

1月 5日　冬期休業終了
1月 6日　新年賀詞交歓会
1月18日　大学入試センター試験日(～19日)
1月25日　大学入試センター試験日(追試)(～26日)
1月31日　後学期末試験・補講日(～2月7日)
2月 4日　博士前期課程2月入試日(～5日)
2月13日　博士前期課程2月入試合格発表
2月25日　学部入試日(前期)(～26日)
3月 4日　博士後期課程3月入試日(～6日)
3月 8日　学部入試(前期)合格発表
3月12日　全学送別会
　　学部入試日(後期)
3月14日　博士後期課程3月入試合格発表
3月20日　学部入試(後期)合格発表
3月24日　卒業式
3月31日　永年勤続表彰式

平成24年度卒業式

お茶の水女子大学学報　第 236 号
▽発行日 :2013 年 4 月 4 日
▽発　行 : 国立大学法人お茶の水女子大学
東京都文京区大塚 2-1-1（〒 112-8610）

ご意見・ご感想はこちらまで
学術・情報機構広報チーム
電話　03-5978-5105
FAX　03-5978-5545
E-mail:info@cc.ocha.ac.jp
URL　:http://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学報「GAZETTE」は、
本学ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。

Copyright (C) 2013 Ochanomizu University. All Rights Reserved